

# 二枚貝資源復活プロジェクト

(中海におけるサルボウガイ、アサリの増養殖技術の開発)

開内 洋・勢村 均

## 1. 研究の目的

中海のサルボウガイ漁業復活を目的に天然採苗技術により採苗した稚貝を用いた籠養殖試験と試験放流を行った。また、アサリ稚貝を効率的に採取する手法の開発を行った。

## 2. 研究方法

### (1) サルボウガイ籠養殖試験

平成25年6～12月に前年採苗した種苗を用いて、異なる条件下で養殖試験を行った。条件は対照区としてパールネット、コスト削減対策として、安価な簡易袋(55×60cm、ラッセル生地)、付着物防止対策としてシリコン系防汚塗料(アクアセイフティ、バツセル化学)を塗布した簡易袋等の試験区とした。各試験区は中海中央(水深約6m)の延縄施設に垂下深度(2.5～4mまで50cm間隔)毎にサルボウの生残、成長等を比較、効果を検討した。

### (2) サルボウガイ品質評価、販売試験

平成26年6月に籠養殖試験で飼育したサルボウガイの品質評価のため、県内の業者(鮮魚店、加工屋、飲食店等)に生産したサルボウガイを配布し、アンケート方式で評価調査を行った。また平成25年11～2月に籠養殖したサルボウガイを主に県内で試験販売した。

### (3) サルボウガイ種苗放流試験

平成25年8月に前年度採取した種苗3.5千個(平均殻長24mm)を簡易袋に入れた状態で本庄、下宇部尾、遅江の各沖合3地点に設置した。設置3ヵ月後に簡易袋を回収した。

### (4) アサリ稚貝採取試験

春先に高密度で発生する殻長約5mmの稚貝を効率的に採取するため、鋤簾枠に水中ポンプの吹き出しノズルを固定した簡易な構造で、水中ポンプの水流で湖底の砂と共に稚貝を巻き上げ、その後方で鋤簾枠に付けたネット(5mm目合)で回収し、ネットにより稚貝のみを採取する方式の簡易な稚貝採取器を試作し、現

場で実証試験を行った。

## 3. 研究結果

### (1) サルボウガイ籠養殖試験

4mの一部の試験区を除き生残率は概ね80%以上で推移した。簡易袋区は、生残は対照区と大きく違わなかったが、稚貝が袋の中で団子状となって内側と外側で成長差が生じ、対照区と比較して成長が劣った。飼育は可能だが、高品質な貝を生産するには適さないと考えられた。防汚処理をした試験区では、付着物量が増加する7～9月にかけて、対照区の袋と比較して付着物量が減少した。しかし、サルボウガイ殻への付着は防止できなかった。また、成長は対照区と同等であった。防汚塗料の塗布は、籠洗浄の労力軽減につながると考えられるが、コストの評価が必要である。

### (2) サルボウガイ品質評価、販売試験

6月のサンプルでは5業者中4業者から、身入りや味、食感でよい評価を受けた。また、残り1業者も平成26年1月のサンプルでは高評価であった。11月以降の県内の販売試験では、身入りや味が良好で、高単価(450円/300g)にもかかわらず約1.5トンを販売できた。

### (3) サルボウガイ種苗放流試験

放流3ヶ月後の11月に簡易袋の回収を行った。生残個体数は下宇部尾で1個体、本庄で0個体であった。斃死原因は貧酸素によると推察された。遅江については袋を回収できなかった。

### (4) アサリ稚貝採取試験

稚貝採集器は鋤簾と比較すると少ない労力で稚貝が採取可能であった。しかし効率良く採取するためには、海藻類等が少なく、粒度の細かい砂地を選択する必要がある。

## 4. 研究成果

● 調査で得られた成果は、宍道湖・中海水産資源維持再生事業検討会で発表した。